

地域医療に貢献する～次世代につなぐ新しい市民病院

新病院建設事業基本設計 中間報告



※建物の外観・色彩等は現時点でのイメージです。
エントランス側イメージ

1 新病院の理念と基本方針

1 理念

地域医療に貢献する。

2 基本方針

- ① 質の高い医療を実践する。
- ② 地域の医療、保健・福祉機関と連携する。
- ③ 患者の権利を尊重し、医の倫理を遵守する。
- ④ 優れた医療人を育成する。
- ⑤ 健全経営を行う。

3 重点機能

- ① 地域医療連携と急性期医療の実践
- ② 政策的医療への取組
- ③ 災害拠点病院及び第二種感染症指定病院としての医療機能の確保
- ④ 回復期リハビリテーション病床の保持
- ⑤ 地域の中核的な教育・研修機関としての取組

2 新病院の整備方針 - 新病院基本設計における7つの整備方針の実現 -

1 救急患者に迅速に対応できる病院

⇒ 市民を守る救急ホットラインの構築

救急専用大型エレベーターにて救急、手術、重症室、ヘリポートを直結します。救急医療の強化を実現します。

2 患者にやさしい病院

⇒ ユニバーサルデザインに基づく市民にやさしく、わかりやすい病院

1、2階の外来・検査部門はセンターストリートからすべての部門が見渡せます。患者にやさしく、わかりやすい病院を実現します。

また、プライバシーにも配慮します。

3 職員にとって働きがいのある病院

⇒ 機能的なスタッフ専用動線の構築

スタッフと患者の動線が交錯しないようにスタッフ専用の通路を設けます。また、3階はスタッフフロアとし、共用スペースの集約と効率化を図ったスタッフ専用の交流と休憩スペース(スタッフコモンズ)を整備します。

4 利便性が向上した病院

⇒ 安全性・利便性に配慮した外構計画

十分な駐車スペースの確保、広いロータリーを整備し、主玄関まで安全な動線を計画します。

5 災害に対応した病院

⇒ 南海トラフ地震等への災害対応

災害拠点病院としての安全な構造、設備を整えます。災害時を想定した建物利用を計画します。

6 環境とライフサイクルコストに配慮した病院

⇒ 健全経営に貢献する環境・省エネ技術

省電力・長寿命の照明の採用、節水型衛生設備等、経済性・耐久性、維持管理の容易性等に優れた設備を整備します。

7 将来変化を見据えたフレキシブルな病院

⇒ 将来の可変に備えたフレキシブルシャフトを計画

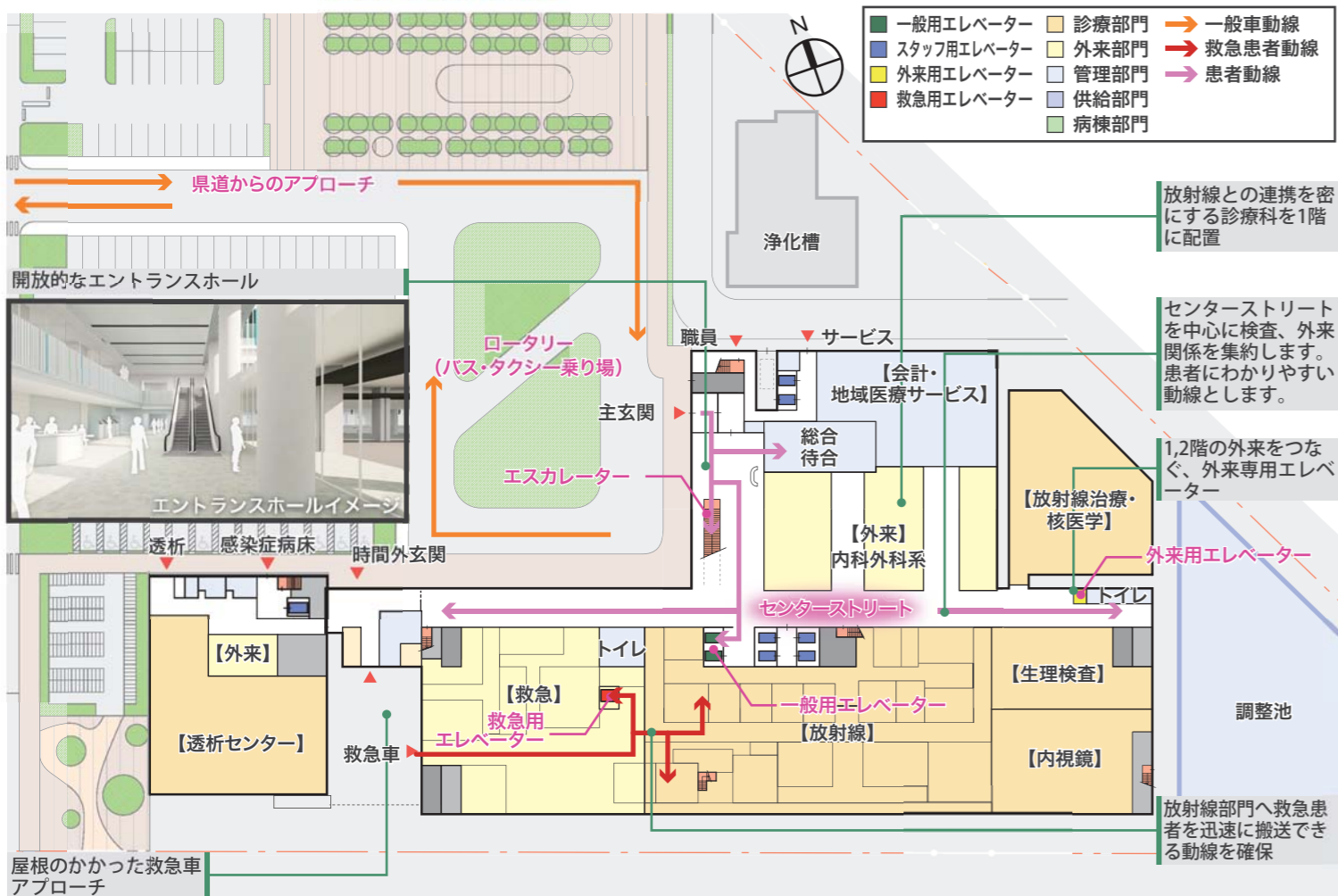
各病棟に将来エレベーターの設置を可能とするフレキシブルシャフトを配置し、他用途への変更にも対応できる計画とします。

3 新病院建設概要 (平成28年10月現在)

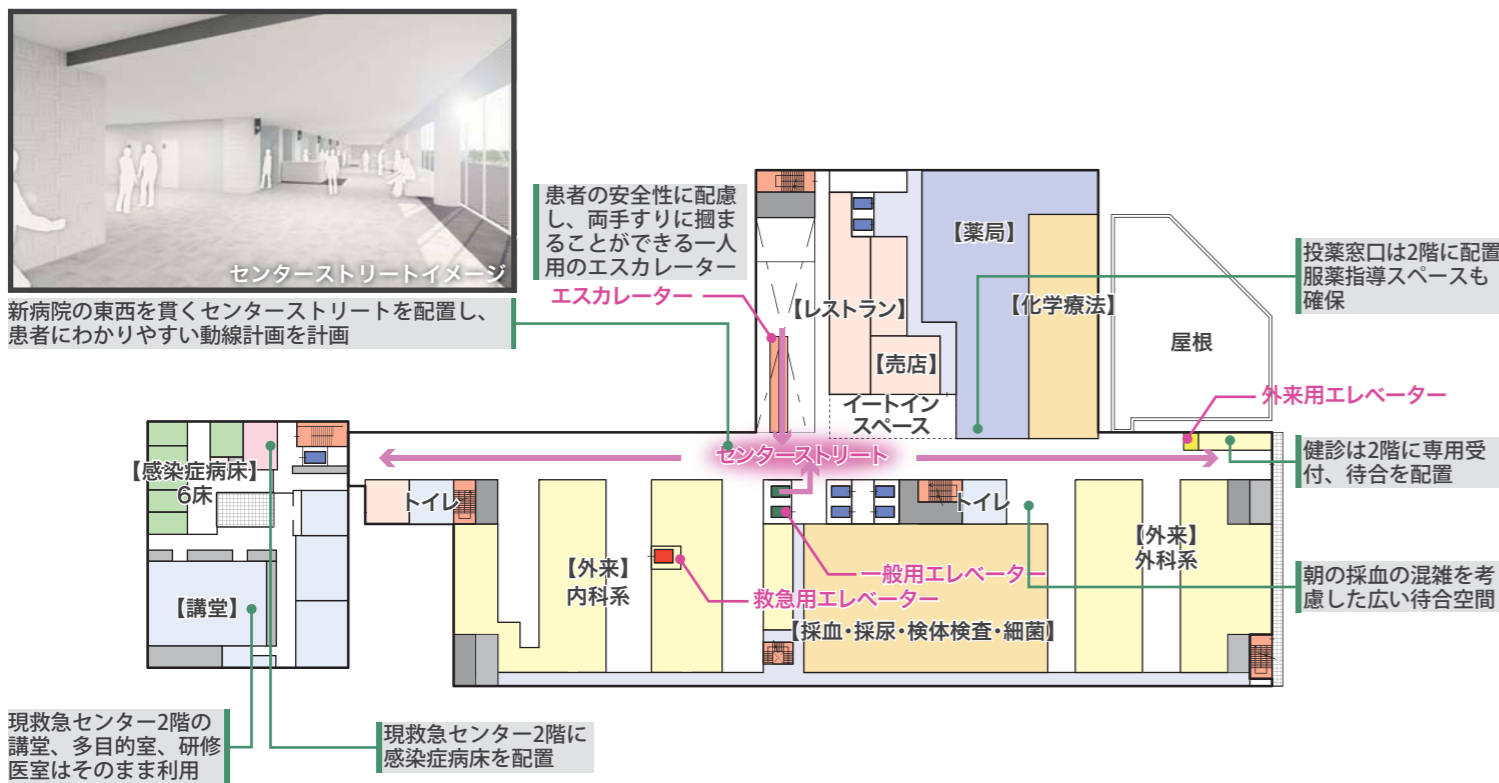
建設場所	島田市野田 1200 番地の 5 (現東側駐車場付近)
敷地面積	約 32,000 m ²
建築面積	約 8,800 m ² (現健診センターを除く)
延床面積	約 36,000 m ² (うち新棟約 34,000 m ² 、現救急センター改修約 2,000 m ²) (現健診センター除く)
病床数	445 床 【一般病床 405 床 (うち感染症病床 6 床、結核病床 4 床) 回復期リハビリテーション病床 40 床】
構造	新病院：鉄骨造 (免震構造) リニアック棟：鉄筋コンクリート造 (耐震構造)
規模	地上 7 階建 (一部ボイラー室のみ 8 階)
竣工予定	平成 32 年度 (新病院開院)
駐車場	駐車場約 960 台

4 各階平面計画図

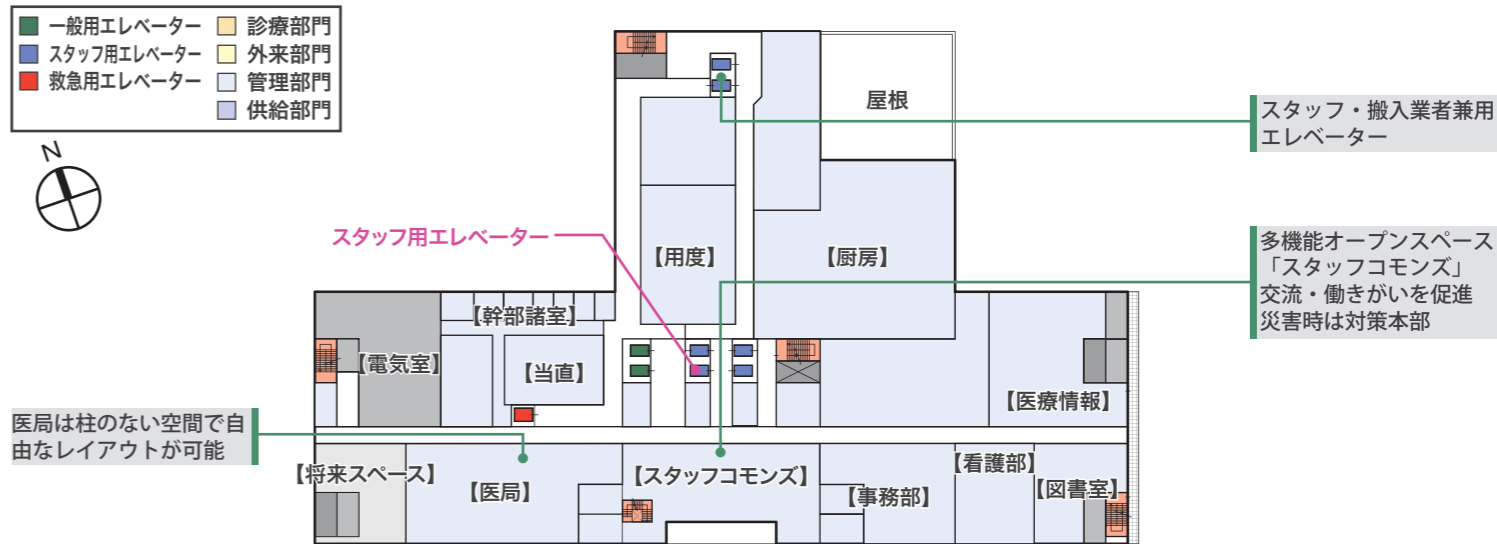
1階 救急機能を中心に高度医療機能を集約



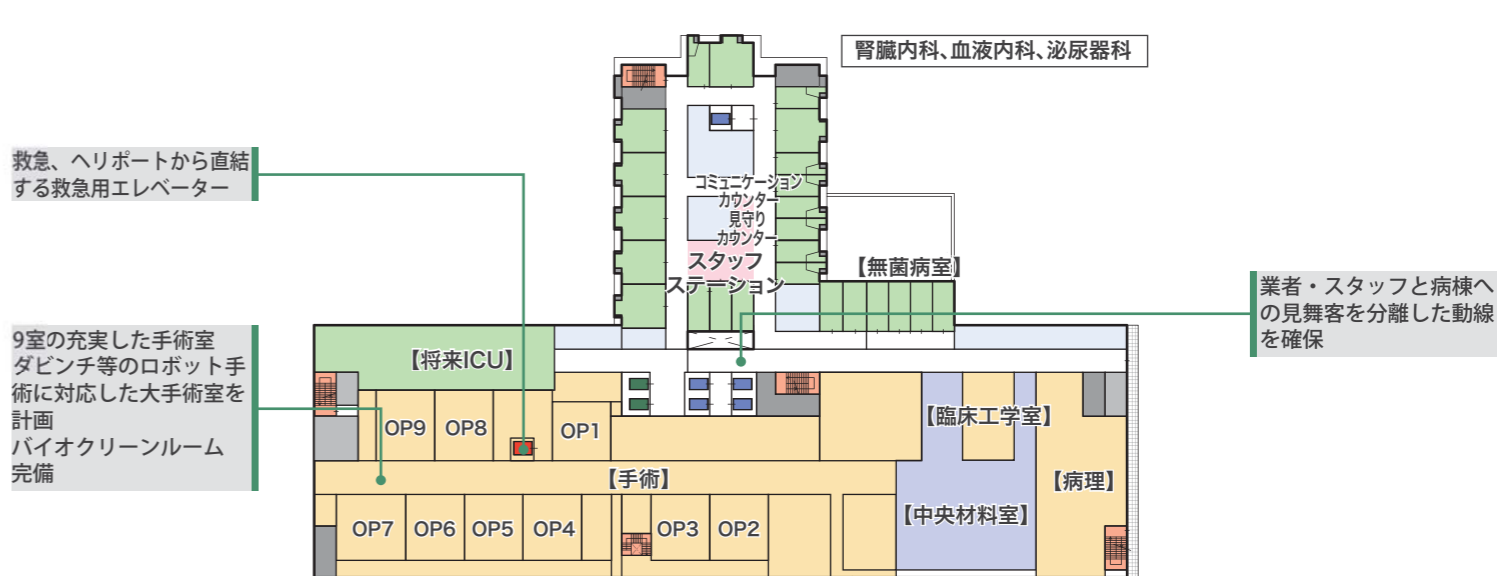
2階 センターストリートを中心にわかりやすく外来・検査部門を配置



3階 共用スペースを集約化、効率化したスタッフフロア

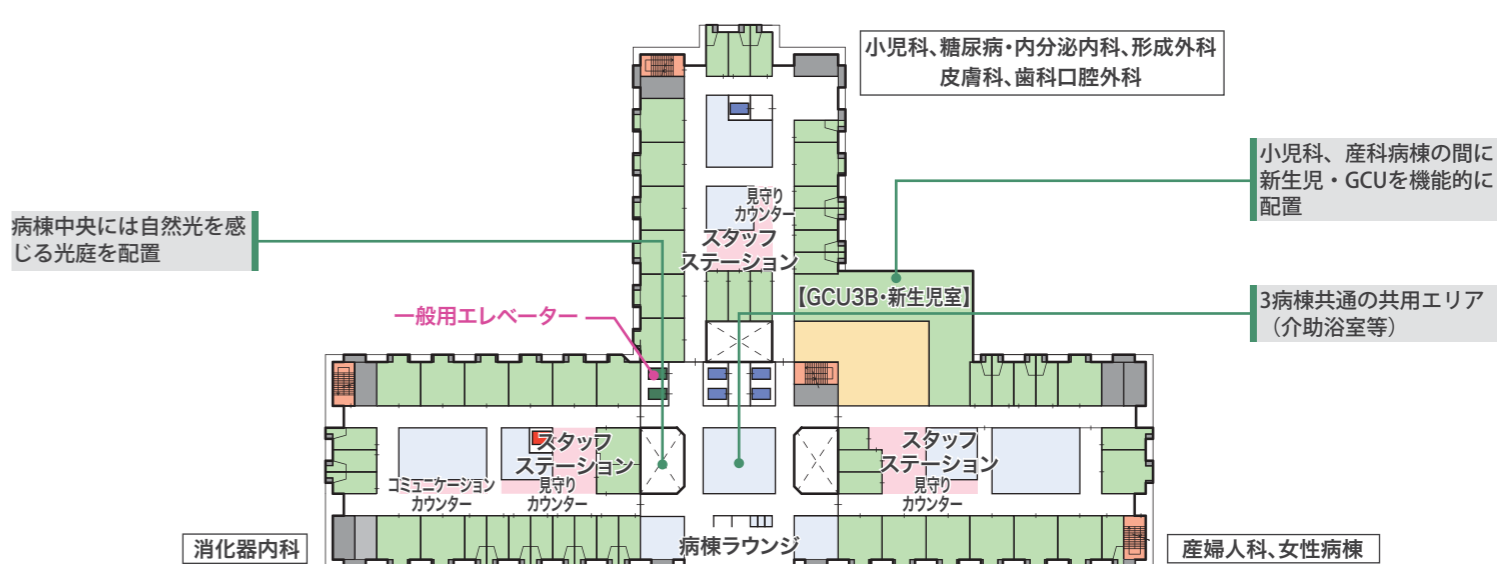


4階 手術フロア、高度治療機能を集約配置

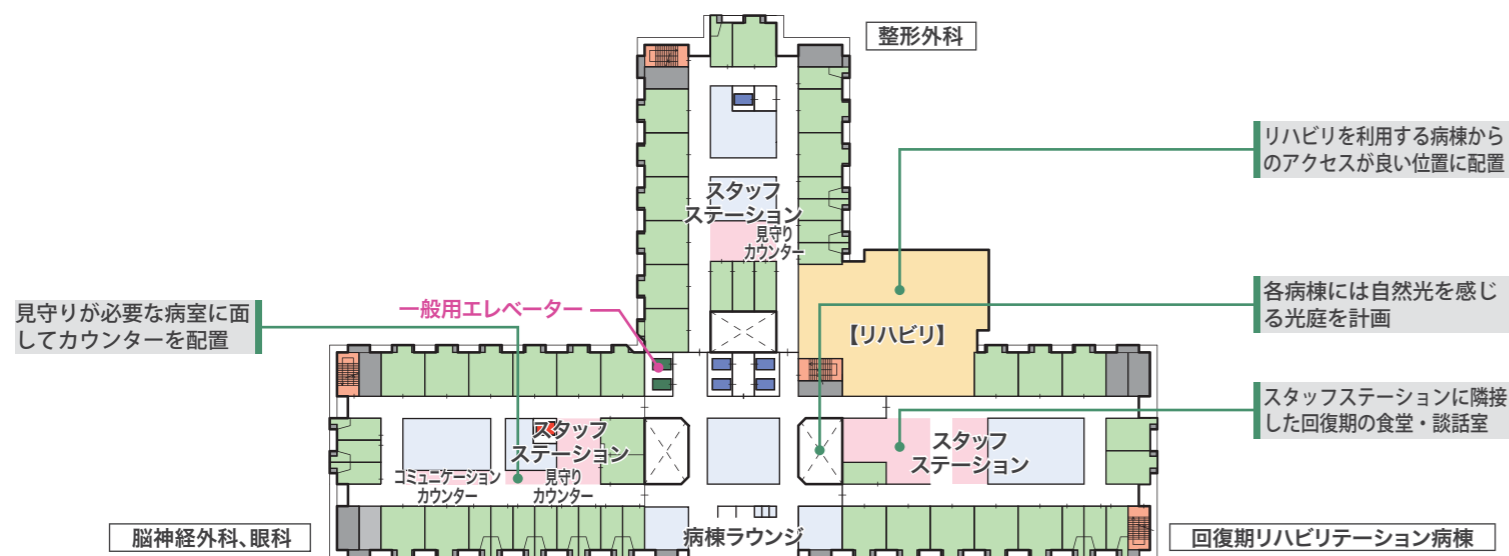


ワンフロア 3看護単位の機能的な病棟

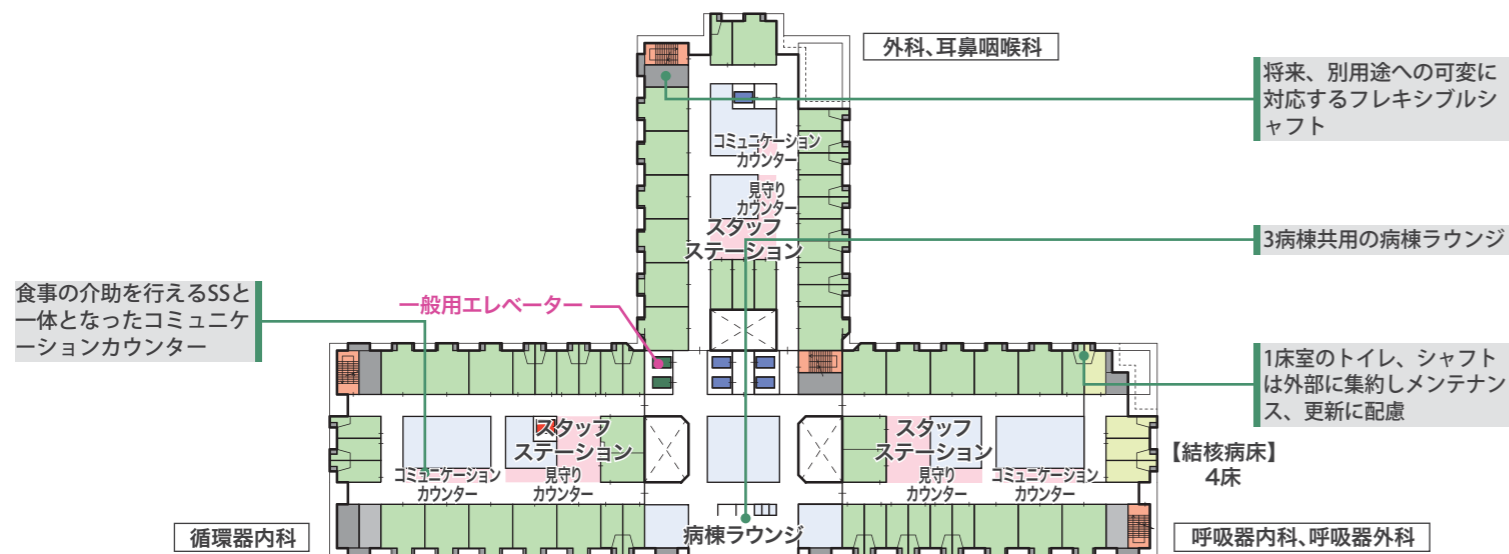
5階 小児科病棟と産科病棟の間に分娩、新生児、GCU (新生児治療回復室) を機能的に集約



6階 リハビリと関連性の高い、脳神経外科、整形外科、回復期リハビリテーション病棟を集約



7階 最上階の7階に結核病床を持つ呼吸器（内科・外科）病棟を配置

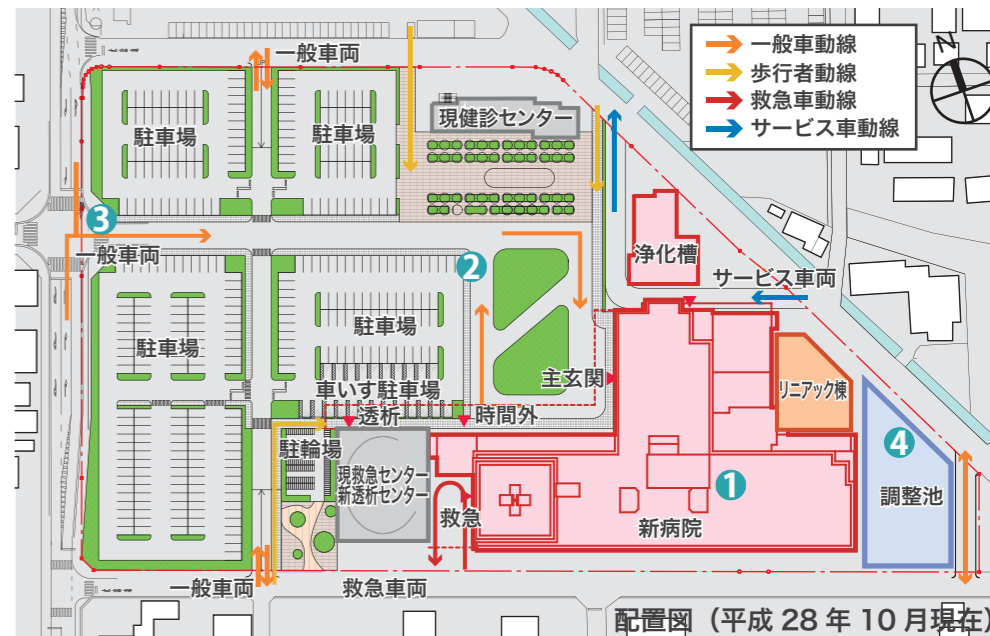


療養環境に配慮した病棟計画



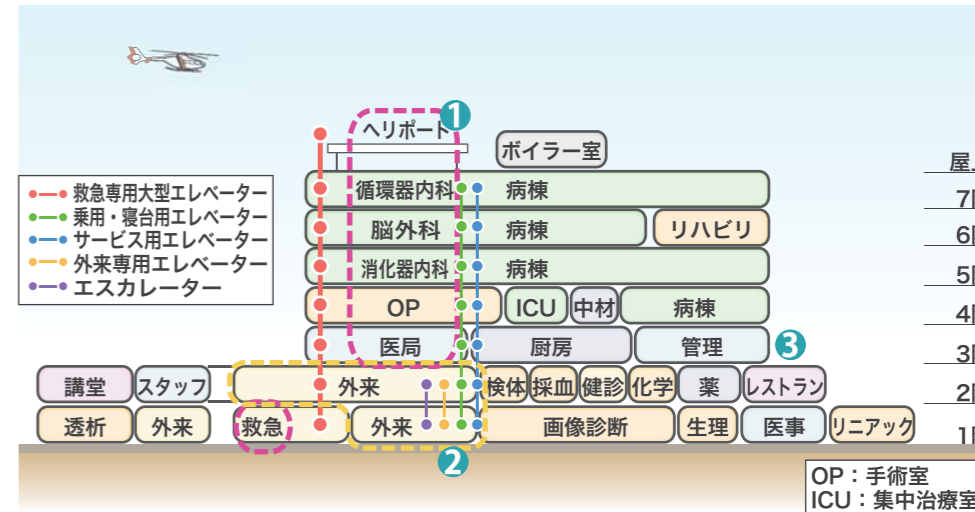
5 利便性の高い配置計画

- 1 建物配置**
現東側駐車場を中心にコンパクトかつ合理的な新病院を建設
- 2 利便性**
十分な駐車場を確保し、乗降のしやすい広いロータリを計画
- 3 渋滞緩和**
渋滞を緩和する交差点と右折レーン
- 4 雨水処理対策**
雨水排水を緩和するための調整池



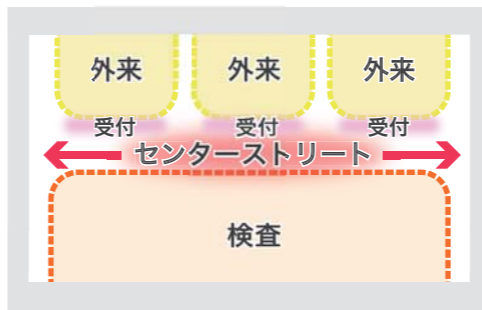
6 コンパクトで機能的な階層構成

- 救急と密接に関連のある部門や病棟を救急エレベーターに隣接して配置し、ヘリポート・救急車からの迅速な患者搬送に対応します。
- 1、2階には患者が利用する外来・検査部門をセンターストリートを中心に集約し、コンパクトな動線とします。また、エスカレーター、外来専用エレベーターを設置することで患者の上下階への移動に配慮した計画とします。
- 3階にスタッフエリアを集約し、患者エリアと分離した明確な階構成とします。

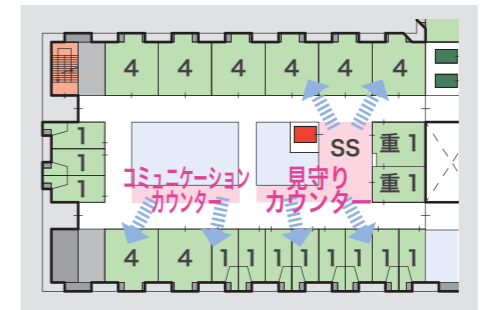


7 患者・スタッフにやさしい新病院

- ### 新病院の軸となるセンターストリート
- 1、2階は病院の東西を貫くセンターストリートに面して外来、検査を隣接させ、患者にわかりやすい平面計画とします。
 - 外来受付はブロックごとに集約し効率でわかりやすい配置とします。



- ### 高齢社会に適した寄り添い、見守る病院
- スタッフステーション（SS）はオープンカウンターで見守りしやすい配置とします。
 - 重症室はスタッフステーション（SS）横に配置し、患者の容体変化に迅速に対応ができるよう配慮します。



- ### 職員のコミュニケーションの場となるスタッフ commons
- 3階に共用スペースの集約と効率性を図った「スタッフ commons」を配置します。全スタッフ共用の場として休憩・談話等に利用し、多職種交流を促進します。
 - カンファレンス、実習、勉強会など医療の質の向上に貢献するスペースとしても活用します。



8 将来の医療需要の変化に対応する新病院

『新病院の可変への工夫』

① ユニバーサルスペース

・鉄骨造を採用し、ロングスパン化を可能とすることで、将来に渡り自由な平面計画を可能とします。

② セントラルコア

・エレベーター、階段を中央に集約することで設計の自由度を高めます。

③ フレキシブルシャフト

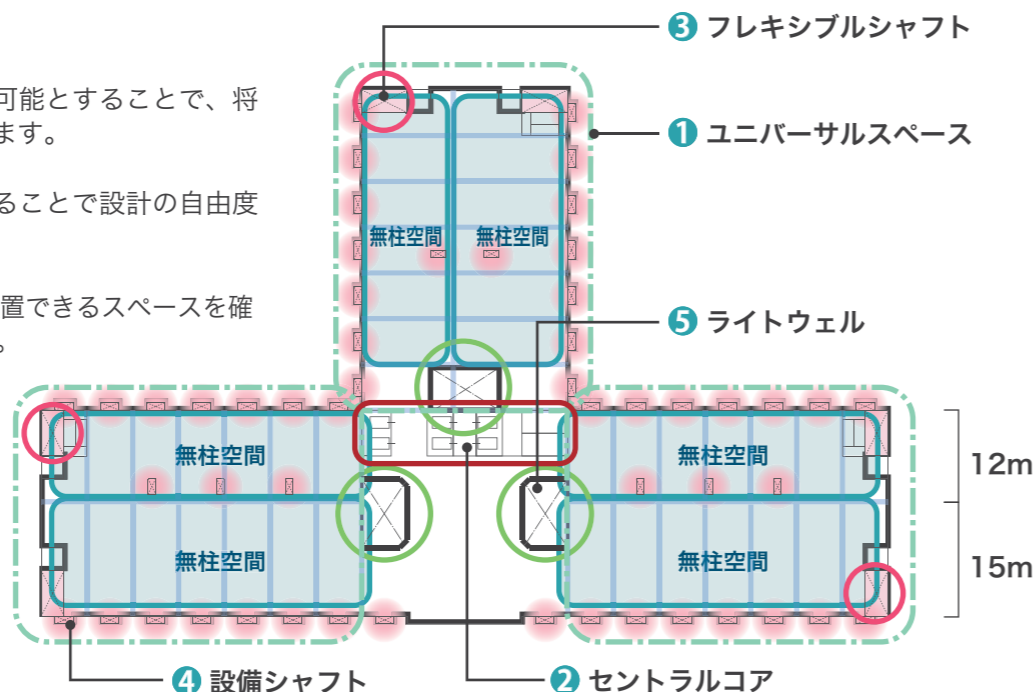
・各病棟に1ヶ所将来エレベーターを設置できるスペースを確保し、他用途への改修を容易にします。

④ 設備シャフト

・病室のシャフトを外周に配置することでメンテナンスを容易にし、改修のしやすい計画とします。

⑤ ライトウェル

・各病棟に1ヶ所の光庭を設けることで自然を感じることで空間を確保し、将来の独立した用途にも対応可能とします。



9 省エネ・節水対策

■ 病院のエネルギー消費特性をふまえた省エネ計画

・病院経営を永続的に支えるため、各部門のエネルギー消費特性をふまえた省エネ計画や自然エネルギーの活用をします。

■ 節水対策

・少ない水量でトイレを洗浄し、無駄な水を使わない節水型トイレを採用します。
・自動水栓を採用し、適切な水道使用量に配慮します。

最適な省エネ手法	
<p>空調の消費エネルギーを削減します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調を行うエリアを細分化し、効率的で適切な運転管理を行います。 ・室内から排気する空気熱を再利用することで、熱量の損失を抑制する省エネ空調を行います。 ・適切な換気コントロールにより、エネルギー消費量を抑制します。 	<p>電気を削減します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な廊下の端部に大きな窓、病棟に中庭を設けるなどして、院内への自然採光に極力配慮します。 ・階段・トイレの照明は人感センサーにより点灯します。 ・消費電力の少ないLED照明を採用します。 ・時間帯・エリアに応じた照明制御を行います。

10 南海トラフ地震等に対応する安全な新病院

■ 軟弱地盤対策の方針について

・基礎工法としては摩擦杭工法と支持杭工法が考えられます。ボーリング調査の結果、地盤の中間層での支持力が低いため、中間層で支持をする摩擦杭工法は、適さないと判断しました。一方、泥岩層は高い支持力を有しており、支持杭工法の場合は、摩擦杭工法にくらべ工期・コスト面で優れています。新病院においては、支持杭工法を採用する方針で計画します。

① 病院本体上部構造

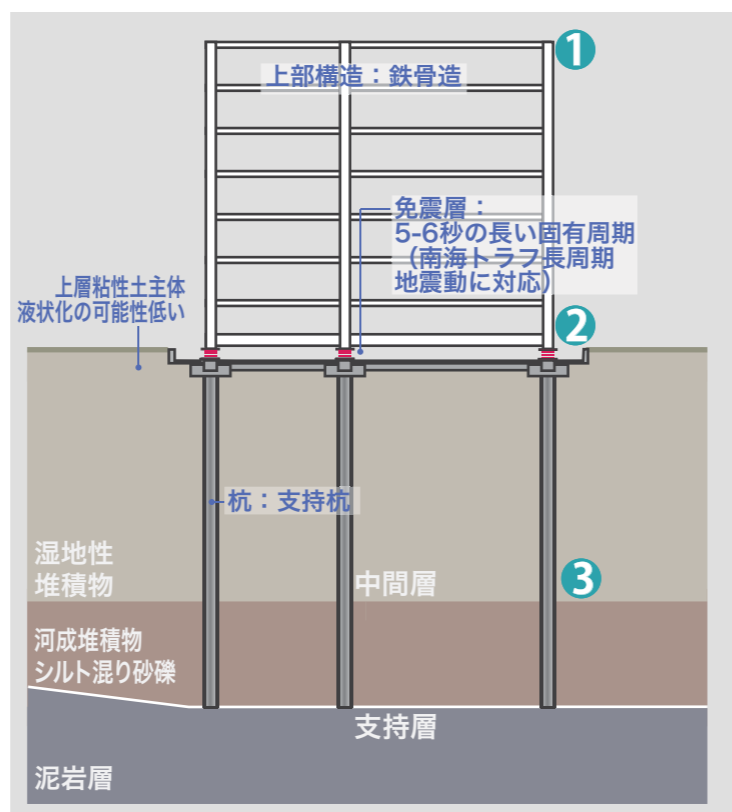
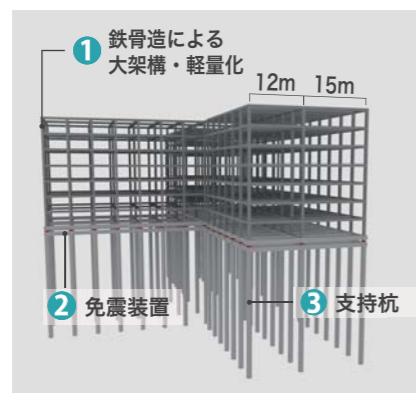
・新病院は鉄骨造で建物重量を軽減させます。
・免震構造を採用します。南海トラフ地震等の模擬地震波を用いた設計を行うことで、十分な安全性を確保します。

② 免震装置

・南海トラフ地震等の影響を考慮し、長周期地震動に備えた、十分な免震効果を発揮します。

③ 下部構造

・支持力の高い泥岩層まで杭を到達させ、堅固な地盤にて杭を支持させます。



11 災害拠点病院としての機能

■ 被災者受入れ体制の強化

・玄関大庇下を利用した屋外トリアージを想定
・適切な入館制限、重症度別の受入れ（トリアージ）動線設定により、災害によるパニック、院内混乱を防止
・初療エリア（軽症、中等症、重症）を1階で完結
・センターストリート及び共用部には医療ガス、電源、LANを分散配置
・3階スタッフコモンズに災害対策本部を設置

■ パンデミック時の対応

・感染者隔離スペースとして、陰圧ゾーンの計画
・陰陽圧式医療用テント設置スペース、トリアージスペース確保



電力	・非常用発電機によるバックアップ ・オイルタンクにより燃料3日分の備蓄 (通常時、使用する電力の50～60%)
給水	・耐震上水配管の新設 ・透析用給水は、別系統とし受水槽の採水高さを調整することにより備蓄
排水	・浄化槽への非常用電源の供給
給湯	・給湯ボイラーの燃料3日分の備蓄

空調	・重要室の空調を電気式パッケージエアコンとし、非常用発電機の電力により稼働させる
医療ガス	・10日分の備蓄
食事	・炊飯器、回転釜等一部の電気厨房機器を非常用電源対応とする
備蓄	・現健診センターに災害用備蓄倉庫確保
情報	・衛星電話用のパラボラアンテナ、防災無線の設置

12 今後のスケジュール (平成28年10月現在)

平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年
1月	7月	1月	7月	1月	7月
設計期間					
	仮設駐車場工事 8ヵ月 水道路代替工事 6ヵ月	準備工事 10ヵ月	新棟建設工事 23ヵ月	開院準備 3ヵ月	解体工事 7ヵ月 外構工事 5ヵ月
				新病院開院	グラウンドオープン
				改修工事 4ヵ月	

13 新病院建設に向けて

■ 工事期間中の駐車場対策 - 建設工事により不足する駐車場 (約260台) を確保します。 -

・来院者用として大橋医院跡地に約25台、北東駐車場北側 (現職員用) に約235台を確保します。
・職員用として中央公園や私有地を借りて確保します。

■ 新病院建設関連基盤整備事業 - 周辺地域の基盤整備を市の事業として計画します。 -

・アクセス向上や渋滞緩和などを目的とする道路整備 (新病院入口 (右折レーン) 設置事業 / 高橋千歳橋線改良事業)
・周辺地域の排水対策 (大津谷川第2号水門改修事業)
・上水道整備 (病院周辺配水管更新事業)

※基本設計の途中段階での内容を取りまとめたものです。今後の状況により内容を一部変更することもあります。